

『草木みな

よく言語り』

(伝法の巻)

儂に何か聞きたいことがあるというのはおまえかい？

神社の杜(九)

ビジターセンター 所長 片柳 茂生

神社の参道に三百年も前からいる大杉の爺さんに聞いてこいと言われたのか。そうか、よしよし儂が何でも教えてやろう。ところで今日は何を聞きたいのじゃ。なにに、数日前から若い者

が神社に籠もっているが、いったい何をしているのか？これはな『伝法』と言って御嶽神社の神主、すなわち御師になるための大事な修行をしているのじゃ。この『伝法』

が済んではじめて御師として認められ、神社に奉仕できるようになるんじゃ。

七日の間に、禊行法・祭式の作法・神職の心得など数多



ろうし、つらいこともあることじゃろう。禊ぎ行法では、水温が十四度位しかない滝壺に入って落ちてくる水に打た

れるんじゃからプールで泳ぐようなわけにはいかんわ

い。それも日に朝と夕方の二度やらねばならん。祭式の作法にしたって、座って行うのがほとんど

だから修行が終わる頃には、膝が真っ赤になっておるわ。

ま、『伝法』が済んだからと言ってすぐに一人前に何でもできると言うわけにはいかんが、後は経験を積んでいくしかないのう。それに、神楽や雅楽もこれから修得せねばならんしのう。

いままで経験していなかったことを短い期間でやるんじゃから大変なんじゃ。なんせ見ることも聞くこと初めてのことじゃから戸惑うた

とにかく来年の正月には、この若者たちが神社で立派にお勤めをしている姿が見られることじゃろうて。さては、楽しみなことじゃ。

あとがき

いつの間にかスキの穂も出そろい「秋虫の女王カントン」の鳴き声もそこかしこより聞こえてすっかり秋めいてまいりました。

「光陰矢のごとし」とはよく言ったもの、本誌が産声をあげて、早くも五年目になりました。これを機により一層のご購読を賜わりたくカラーページにいたしました。今後もご寄稿をお待ちしております。(片柳)



秋虫の女王 カントン

平成九年九月二十九日発行

(非売品)

編集 武蔵御嶽神社

046(七)八五〇

印刷 榊成和印刷